

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3363		
科目名	国際地域研究 3 (ヨーロッパ・ユーラシア)		
担当教員	大八木 時広		
対象学年	4年	開講学期	後期
曜日・時限	金 3		
講義室	1202	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード：学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 2－A [日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢] 地球的視点で物事を多面的に捉え、異文化との交流の重要性を認識するとともに、異文化との交流を積極的かつ多面的に行い、相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。 D P 4－I [理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード：学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック(CR)との関連 A1 グローバル感覚-20% A2 異文化適応-20% E1 学識・専門技能-20% I1 理解・分析と読解-20% I2 量的分析-10% I3 情報分析-10%		
教員の実務経験	特になし		
成績ターゲット区分	■ 能力開発の目標ステージとの対応 3発展期～4定着期		
科目概要・キーワード	国際安全保障及び海外での危機管理を学ぶためには、それぞれの地域がおかれている状況や文化、歴史について知る必要があります。それぞれの地域における政治的、経済的、文化的状況や、それぞれが持つ宗教問題、人種問題、独立問題など特殊な事情について具体的に学ぶことにより、安全保障や危機管理に活かすことが可能となります。ここではヨーロッパ、ユーラシアについて学び、理解を深めることを目的とします。授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■ キーワード 各国の政治体制、各国の外交政策、国別のリスク要因		
授業の趣旨	■ 副題 ヨーロッパの政治や社会(文化や宗教を含む)について理解を深め、地域的なリスク要因を学びます。 ■ 授業の目的 本授業の目的は、まずヨーロッパ・ユーラシアについて、政治・経済・社会の基礎知識を身につけることにあります。その上で国ごとにどのような政治的・経済的・社会的特徴があるのかを説明する能力を習得します。さらに各国の外交・安全保障についての知識を身につけ、国ごとにどのような外交・安全保障の背景をもつのか、どのような特性をもつのか、そのことがど		

	のような政策と結びつくのか説明する能力を習得します。こうした知識を基にして、ヨーロッパ・ユーラシアの抱える課題、とりわけ対内的・対外的リスク要因がどのようなものかを解明する能力を習得します。 ■授業のポイント 各国の制度や政策の違いはどのような国情の違いから生み出されたのかを重点的に説明します。								
総合到達目標	■ EUについて理解し、その結果、EUの制度・政策を説明できるようになる。 ・ 欧州統合の歴史の概要を説明することができる。(第2回) ・ EUの主要機関について説明することができる。(第2回) ・ EUの政策決定過程について説明することができる。(第3～4回) ・ EUの主な政策課題について説明することができる。(第3～4回) ■ ヨーロッパ各国及びロシアとその近隣諸国の政治・経済・社会について理解し、その結果、これらの国々の抱えるリスク要因を指摘できるようになる。 ・ 西欧諸国の個別の政治制度、政治・経済・社会問題について説明することができる。(第5,7,9,13回) ・ 中東欧諸国の個別の政治制度、政治・経済・社会問題について説明することができる。(第14回) ・ ロシアの政治制度、政治・経済・社会問題について説明することができる。(第11,15回) ■ ヨーロッパ各国及びロシアとその近隣諸国の外交・安全保障について理解し、それらが抱える体外的リスク要因を指摘できるようになる。 ・ 西欧諸国の個別の外交・安全保障政策、インテリジェンスについて説明することができる。(第6,8,10,13回) ・ 中東欧諸国の個別の外交・安全保障政策、インテリジェンスについて説明することができる。(第14回) ・ ロシアの外交・安全保障政策、インテリジェンスについて説明することができる。(第12,15回)								
成績評価方法	■ レポート2回(40%)：適用ルーブリック A1・A2・E1・I1・I2・I3 (評価の観点) 授業の内容を踏まえて、知識が身についているか、授業テーマに関して論理立てて明確に自分の考えを示せるかについて評価します。 (フィードバック方法) クラスルームにて解答・解説を行います。 ■ リアクションペーパー15回(60%)：適用ルーブリック A1・E1・I1 (評価の観点) 単元ごとの理解度を図ります。 (フィードバック方法) クラスルームにて解答・解説を行います。								
履修条件	特にありません。								
履修上の注意点	特にありません。								
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の大まかな流れ、概要について説明します。具体的には講義計画、成績評価など。またテキストや参考文献をどのように読めばよいのか、どのように予習と復習に役立てるのかといった点も説明します(A1, A2, E1, I1, I2, I3)。 ③予習(120分) シラバスを呼んでおく。 ④復習(120分) 授業全体の流れを確認しておく。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ ヨーロッパとは何か ②授業概要 まずヨーロッパ全般について、政治・経済・社会・文化の要素を取り上げ説明します(A1, A2, E1)。その上で、1950年代に本格化したヨーロッパ統合の概要について、なぜ始められたのか、何を目的としていたのか、どのようなプロセスを経て現在に至るのかといった点を中心に分析します(I1, I2, I3)。リアクションペーパーを作成・提出してもらいます。 ③予習(120分) 教科書18章を読み、ヨーロッパの概要についてまとめておく。 ④復習(120分) ヨーロッパ統合について学んだことを基に、統合プロセスについてまとめておく。 </td></tr> <tr> <td>3</td><td> ①授業テーマ ヨーロッパ連合(EU)とは何か ②授業概要 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の大まかな流れ、概要について説明します。具体的には講義計画、成績評価など。またテキストや参考文献をどのように読めばよいのか、どのように予習と復習に役立てるのかといった点も説明します(A1, A2, E1, I1, I2, I3)。 ③予習(120分) シラバスを呼んでおく。 ④復習(120分) 授業全体の流れを確認しておく。	2	①授業テーマ ヨーロッパとは何か ②授業概要 まずヨーロッパ全般について、政治・経済・社会・文化の要素を取り上げ説明します(A1, A2, E1)。その上で、1950年代に本格化したヨーロッパ統合の概要について、なぜ始められたのか、何を目的としていたのか、どのようなプロセスを経て現在に至るのかといった点を中心に分析します(I1, I2, I3)。リアクションペーパーを作成・提出してもらいます。 ③予習(120分) 教科書18章を読み、ヨーロッパの概要についてまとめておく。 ④復習(120分) ヨーロッパ統合について学んだことを基に、統合プロセスについてまとめておく。	3	①授業テーマ ヨーロッパ連合(EU)とは何か ②授業概要
回	内容								
1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の大まかな流れ、概要について説明します。具体的には講義計画、成績評価など。またテキストや参考文献をどのように読めばよいのか、どのように予習と復習に役立てるのかといった点も説明します(A1, A2, E1, I1, I2, I3)。 ③予習(120分) シラバスを呼んでおく。 ④復習(120分) 授業全体の流れを確認しておく。								
2	①授業テーマ ヨーロッパとは何か ②授業概要 まずヨーロッパ全般について、政治・経済・社会・文化の要素を取り上げ説明します(A1, A2, E1)。その上で、1950年代に本格化したヨーロッパ統合の概要について、なぜ始められたのか、何を目的としていたのか、どのようなプロセスを経て現在に至るのかといった点を中心に分析します(I1, I2, I3)。リアクションペーパーを作成・提出してもらいます。 ③予習(120分) 教科書18章を読み、ヨーロッパの概要についてまとめておく。 ④復習(120分) ヨーロッパ統合について学んだことを基に、統合プロセスについてまとめておく。								
3	①授業テーマ ヨーロッパ連合(EU)とは何か ②授業概要								

	現代のEUがヨーロッパにとってどのような意義と役割があるのかを取り上げます。次にEUがどのようなシステムから成り、また具体的にどのような制度や組織から成るのか取り上げ説明します(A1, A2, E1)。具体的には、ヨーロッパ委員会、ヨーロッパ議会、理事会などの制度や機能を分析します(I1, I2, I3)。リアクションペーパーを作成・提出してもらいます。 ③予習(120分) 教科書18章を読み、EUの諸制度について概要を予習しておく。 ④復習(120分) EUについて学んだことを基に、EU諸機関の主な機能についてまとめておく。
4	①授業テーマ EUの政策とは何か ②授業概要 EUの中心的政策である経済統合について、市場統合、通貨統合といった視点から取り上げ説明します(A1, A2, E1)。またEUの外交や防衛分野の共通政策、「人の自由移動」に関する政策も取り上げ分析します(I1, I2, I3)。リアクションペーパーを作成・提出してもらいます。 ③予習(120分) 教科書18章を読み、市場統合と通貨統合について予習しておく。 ④復習(120分) 共通政策について学んだことを基に、分野ごとの政策をまとめておく。
5	①授業テーマ イギリスの政治・経済・社会 ②授業概要 イギリスの政治システムがどのようなものか、とくにイギリス流の議会制民主主義や政党政治とはどのようなものかを取り上げ説明します(A1, A2, E1)。さらにイギリスの経済・社会について取り上げ、また移民の流入・定着によってイギリスの社会がどのように変容しつつあるのか、それによりどのようなリスク要因を抱えるのかを取り上げ分析します(I1, I2, I3)。リアクションペーパーを作成・提出してもらいます。 ③予習(120分) 教科書2章を読み、イギリスの政治制度の概要について予習しておく。 ④復習(120分) イギリスの政治・社会について学んだことを基に、イギリスの抱える対内的リスク要因をまとめておく。
6	①授業テーマ イギリスの外交・安全保障 ②授業概要 イギリスの外交と安全保障の特徴を包括的に取り上げ説明します(A1, A2, E1)。またイギリス外交の基調を成す、アメリカとの「特別な関係」とは何か、またイギリス連邦との独特な関係はどのようなものかについて取り上げ分析します(I1, I2, I3)。またいわゆるBREXITの問題も取り上げます。リアクションペーパーを作成・提出してもらいます。 ③予習(120分) 教科書2章を読み、イギリス外交における「特別な関係」について予習しておく。 ④復習(120分) イギリスの外交・安全保障について学んだことを基に、イギリス外交がもたらす対外的リスク要因をまとめておく。
7	①授業テーマ フランスの政治・経済・社会 ②授業概要 フランスの政治システムがどのようなものか、とくにフランス独特の強大な大統領制はどのようなものか、また中央集権から地方分権へどのように変化しつつあるのかを取り上げ分析します(I1, I2, I3)。またフランスの経済・社会について取り上げ、さらにヨーロッパ有数の移民を抱えるフランスが、どのような国内的リスク要因を抱えているのかを取り上げます(A1, A2, E1)。なおレポートを課し、後日回収します。なお解説は後日、クラスルームで配布します。 ③予習(120分) 教科書11章を読み、フランスの大統領制の概要について予習しておく。 ④復習(120分) フランスの政治・社会について学んだことを基に、フランスが抱える対内的リスク要因についてまとめておく。
8	①授業テーマ フランスの外交・安全保障 ②授業概要

	フランスの外交・安全保障を包括的に取り上げる説明します(A1, A2, E1)。まずフランス外交の大原則である「自主独立外交」とは何か、またドイツと共にEUの盟主といわれたフランスがヨーロッパ統合をどのようにリードしてきたのかを取り上げ分析します(I1, I2, I3)。またフランスが抱える対外的リスク要因を取り上げ説明します(A1, A2, E1, I1)。リアクションペーパーを作成・提出してもらいます。 ③予習(120分) 教科書11章を読み、フランスの「自主独立外交」について予習しておく。 ④復習(120分) フランスの外交・安全保障について学んだことを基に、フランスの外交が抱える体外的リスク要因についてまとめておく。
9	①授業テーマ ドイツの政治・経済・社会 ②授業概要 ドイツの政治システムがどのようなものか、とくにドイツ流の連邦制とは何か、またドイツのいわゆる穏健な多党制による政党政治がどのように展開されてきたのかを取り上げ分析します(I1, I2, I3)。またドイツの経済・社会について取り上げ、さらにドイツ社会と移民(とくにトルコ移民)の関係がどのようなものであるのか、どのような国内的リスクを抱えているのかを取り上げ説明します(A1, A2, E1)。リアクションペーパーを作成・提出してもらいます。 ③予習(120分) 教科書9章を読み、ドイツの連邦制の概要について予習しておく。 ④復習(120分) ドイツの政治・社会について学んだことを基に、ドイツが抱える対内的リスク要因についてまとめておく。
10	①授業テーマ ドイツの外交・安全保障 ②授業概要 ドイツの外交・安全保障を包括的に取り上げ説明します(A1, A2, E1)。まず戦後ドイツ外交の大原則である「ヨーロッパの中のドイツ」路線とはどのようなものか、それがドイツにとってどのような意義を持つのかについて、EUとの関係も含めて取り上げます。また近年、ドイツは連邦軍を海外派兵しており、これがどのような対外的リスク要因となるのかについて取り上げ分析します(I1, I2, I3)。リアクションペーパーを作成・提出してもらいます。 ③予習(120分) 教科書9章を読み、「ヨーロッパの中のドイツ」路線について予習しておく。 ④復習(120分) ドイツの外交・安全保障について学んだことを基に、ドイツ外交が抱える体外的リスク要因についてまとめておく。
11	①授業テーマ ロシアの政治・経済・社会 ②授業概要 ロシアの政治システムがどのようなものか、とくにロシアの強大な大統領制はどのようなものかについて取り上げ分析します(I1, I2, I3)。またロシアの経済・社会について取り上げ、さらに民族問題を根源とするロシアの国内的リスク要因とはどのようなものか取り上げ説明します(A1, A2, E1)。リアクションペーパーを作成・提出してもらいます。 ③予習(120分) 事前配布資料を基に、ロシアの大統領制について予習しておく。 ④復習(120分) ロシアとその近隣諸国の政治・社会について学んだことを基に、それぞれの国が抱えるリスク要因についてまとめておく。
12	①授業テーマ ロシアの外交・安全保障 ②授業概要 ロシアとその近隣諸国の外交・安全保障を包括的に取り上げ説明します(A1, A2, E1)。まずロシア共和国成立当初の対米協調外交を概観し、次に「強いロシア」の復活を掲げるプーチン時代の外交へどのように変容を遂げたのかを取り上げます。さらにNATO拡大に伴いロシアが安全保障環境の変容にどのように対応したのか、どのような対外的リスク要因を抱えているのか取り上げ分析します(I1, I2, I3)。リアクションペーパーを作成・提出してもらいます。 ③予習(120分) 事前配布資料を基に、ロシア外交の変容について予習しておく。 ④復習(120分)

	ロシアとその近隣諸国の外交・安全保障について学んだことを基に、それぞれの国が抱える対外的リスク要因についてまとめておく。
13	①授業テーマ ベネルクスの政治・経済・社会・外交・安全保障 ②授業概要 ベネルクスの政治・経済・社会・外交・安全保障について包括的に取り上げ説明します(A1, A2, E1)。まずベネルクスの多極共存型デモクラシーを取り上げます。またヨーロッパ統合に当初から参加し、安全保障面ではNATOに全面的に依存するベネルクスの外交・安全保障面での特徴、内外のリスク要因を取り上げ分析します(I1, I2, I3)。リアクションペーパーを作成・提出してもらいます。 ③予習(120分) 教科書5章を読み、ベネルクス諸国の結びつきについて予習しておく。 ④復習(120分) ベネルクスの政治・社会・外交・安全保障について学んだことを基に、各国の抱えるリスク要因についてまとめておく。
14	①授業テーマ 東ヨーロッパの政治・経済・社会・外交・安全保障 ②授業概要 東ヨーロッパの政治・経済・社会・外交・安全保障を包括的に取り上げ説明します(A1, A2, E1)。まず「東欧市民革命」以後の東ヨーロッパの政治的・社会的変容を概観し、さらにEU加盟を積極的に進め、NATO加盟も実現するという外交・安全保障面での進展を取り上げ分析します(I1, I2, I3)。また東ヨーロッパが抱える内外のリスク要因を取り上げます。なおレポートを課し、後日回収します。解説は後日、クラスルームで配布します。 ③予習(120分) 教科書8章、10章、13章を読み、「東欧市民革命」について予習しておく。 ④復習(120分) 東ヨーロッパの政治・社会・外交・安全保障について学んだことを基に、各国の抱えるリスク要因についてまとめておく。
15	①授業テーマ ヨーロッパ、ロシアの対内的・対外的リスク要因 ②授業概要 最後にヨーロッパ、ロシア及びロシア近隣諸国が抱える体的・対外的リスク要因をまとめて取り上げ説明します(A1, A2, E1)。対内的には、以前からの民族問題と共に、移民や難民の受け入れに伴う摩擦・亀裂がリスク要因となりつつあり、また東ヨーロッパにとってロシアはリスク要因となり、一方ではロシアにとって東ヨーロッパのNATO加盟は対外的リスク要因となり得るといった、複雑に入り組んだリスク要因の図式を取り上げ分析します(I1, I2, I3)。リアクションペーパーを作成・提出してもらいます。 ③予習(120分) 1～14回の授業のポイント、とくに各回で取り上げられたリスク要因を自分なりにピックアップしておく。 ④復習(120分) 14回分の授業で学んだことを基にして、ヨーロッパ諸国、ロシア、ロシア近隣諸国に共通する対内的・対外的リスク要因をまとめておく。
関連科目	国際政治学(RMGT3552)、外交史(RMGT3556)、安全保障論1(RMGT3551)
教科書	馬場康雄、平島健司 共編『ヨーロッパ政治ハンドブック』東京大学出版会、2010年、ISBN978-4-13-032214-0
参考書・参考URL	杉本稔『現代ヨーロッパ政治史』北樹出版、2012年 ISBN978-4-7793-0316-6
連絡先・オフィスアワー	■ 連絡先 開講時に告知します。 ■ オフィスアワー 火曜日・金曜日昼休み。アポイントを取って下さい。
研究比率	■ 危機管理領域との対応 グローバルセキュリティ-50% : パブリックセキュリティ-30% : 災害マネジメント10% : 情報セキュリティ-10% ■ 危機管理と法学とのバランス 危機管理学-70% : 法学-30%

